

踵褥創の新知見

高岡駅南クリニック院長 塚田邦夫

踵の褥創は、仙骨部と比べると汚染が少なく下腿部の挙上によって完全除圧ができることから、一見治療は容易と考えられますが、実際はそのように簡単ではない例を多く経験します。そこで、踵の褥創の成因とその対策についてまとめてみました。

1. 踵の褥創は下腿部挙上が常識であった

従来から最高機能の除圧ベッドであっても、踵の褥創は発生するとされてきました。そこで踵褥創の対策としては、下腿部を挙上し踵を宙に浮かせることが行われてきました。その時使うのが、フローテーションパッドやビーズパッドでした。これらを使うことで、踵はベッドに接触せず、完全除圧ができることで褥創の発生を予防し、またできた褥創は治癒に向かわせられると考えてきました。

しかし、このような下腿部の挙上によって、膝下部分に挙上枕による褥創を発症する例がみられました。そのようなときは、より軟らかい素材が必要と考えておりました。実際は患者さんが不快になり、股関節や膝を屈曲するようになり、下肢の屈曲拘縮がおこって、下腿の挙上は無理になり、その結果膝の下に枕を入れることになり、踵がベッドに着いている場面がむしろ多くみられています。

2. 踵の褥創は、車イスが原因となる例が多い

寝たきりの方の踵の褥創が難治になっている例がありました。下腿部を挙上していたのですが、一進一退で治癒しません。ある時驚くべきことが分かりました。患者さんはベッドに寝ていないときは、自宅で車イスに乗っておられました。リクライニング車イスと呼ぶタイプです。



寝たきりの方がこの車イスに乗ると、座面が水平のため、おしりが滑って踵が足乗せの角に当たってかなりの圧とズレがかかっていました。

この方の踵の褥創発生、そして難治化の原因は、車イスの足乗せが原因でした。取りあえ

ず、足乗せ部分にスポンジを巻き付けたところ、あれほど難治であった褥創は一気に治っていきました。

その目で見てみると、同様の例が多いことがわかりました。

3. リクライニング車イスからティルト車イスへ

当時、介護現場ではリクライニング車イスが全盛でした。車イスについて勉強を始めたところ、リクライニング車イスの危険性に気付き、ティルト車イスが勧められる事が分かり、この研究会で積極的にお話しし、また介護の現場でも説明を繰り返しました。

リクライニング車イスでは、背もたれは倒れますが、座面は水平のままのため、あたかもベッドの背上げをするときに、今では常識としてやってはいけないこととされている、膝の部分の挙上をしていないのと同じ事が起こっていました。

9

リクライニング車イスとティルト車イスの違い

車イスによる、仙骨部褥創と踵褥創の発症原理

リクライニング車椅子

ティルト車椅子

- ・リクライニング車椅子では座面が水平なため、上半身を寝かせて行くと坐骨部が滑っていく
- ・ティルト車椅子では上半身を寝かせると同時に座面にも角度をつけられるため、坐骨部の滑りはおこりにくい

Takaoka Ekinan Clinic

つまり、上半身が斜めになって下へとずれていき、仙骨尾骨部に高い圧とズレ・摩擦が同時にかかっていたのです。車イスは移動用具ですから、揺れが付きものです。このような不安定な状態で揺れれば、ズレと摩擦はもっと大きくなり、体は下へと下がっていきます。車イスでは、ベッドと違い足が下がっていますから、下がった足は足乗せにぶつかって、ここでも圧迫とズレが発生するのです。

リクライニング車イスに寝たきりの方が乗った場合、仙骨尾骨部と踵部に褥創発生の危険が高くなります。

実際、仙骨部に褥創のあった方が、リクライニング車イスを使ってショートステイに3日間行ったところ、仙骨尾骨部の褥創が一気に悪化しただけでなく、両踵部に立派な褥創を発症していました。

リクライニング車イスと違い、ティルト車イスでは、背もたれだけではなく、座面も角度が変わります。従って、ベッドを挙上する際、膝の部分を挙上してから背もたれを上げるのと同じ事が、車イスで可能になります。座面と背もたれ部の両方に角度が付くことで、体重を仙骨尾骨部だけで受けるのではなく、背中と大腿部など、広い範囲で支えることができ、かつズレや摩擦もほとんど無い状態を保てます。

ティルト車イスも寝たきりの方に使いますが、車イスの値段はリクライニング車イスと比べると2倍以上することが難点です。しかし、最近はかなり値段も安くなっており、下の

写真のように、高岡地区においてはティルト車イスは標準化されてきており、一家に二人の寝たきりの方がいて、一緒にショートステイやデイサービスに出かけられるときのために、二台のティルト車イスが用意されていることに感動しました。



4. 踵の褥創は、なぜ水疱褥創なのか？

踵の褥創の特徴は、水疱褥創です。ではなぜ水疱なのかと考えてみました。われわれは立位の動物です。立っているときは体重のほとんどは踵にかかっています。つまり踵は圧迫にかなり強い部分のはずですが、この部分に圧迫によって生じるはずの褥創がなぜ発症するのでしょうか。踵は圧迫には強いのですが、横方向の力であるズレには弱いのです。リクライニング車イスでわかるように、圧力だけではなくズレの関与で発症するのです。踵にズレと圧迫が加わると、表皮と真皮の間に滲出液が貯まり、水疱褥創を発症するのです。

では車イスを使っていない方でも踵に水疱褥創がみられるのはなぜでしょうか。ズレはどのように踵にかかっているのでしょうか。

そこでわかったのは、介護動作で踵にズレを起こしているということです。

ベッドを背上げしたり、下げたりするときに、背中や仙骨尾骨部にズレと圧迫が残ることが最近強調されています。そのために、ベッドの背上げ後だけではなく、下げた後も背抜きをする必要性が強調されています。

実はこの時、背中と同様に踵にも強いズレが発生しているのです。背抜きとともに、足抜きをしないと踵にはズレと圧迫が残ってしまいます。踵は圧迫には強くてもズレが加わると組織障害を起こしてしまいます。これを繰り返すことで踵の水疱褥創が発症するのです。同様に横移動時も踵部の足抜きを忘れないようにしましょう。

5. さいごに

踵の褥創は、高機能体圧分散寝具を用いても発生することが不思議でした。最近の研究から、車イス、特にリクライニング車イスがその発症に関与していることがわかりました。さらに、良かれと思ってやっている介護動作、特にベッドの背上げや背降ろしや、横移動時などでの足抜きが重要とわかりました。